JA共済

JA共済 地域貢献活動

PROJECT STORY

農業のために
地域のために
明日のために
JA共済の
地域貢献活動

VOL.06

愛媛県 JAおちいまばり

［子育て支援活動］

令和7年1月

JAおちいまばり
金融営業部
金融企画課 課長
八木治洋さん

行政と連携してJAの強みを発揮し 官民一体で地域の子育て世代を支援したい

未来を担う若い世代が安心して子育てできる地域づくりを

**愛媛県のJAおちいまばりは、今治市と子育て支援に関する連携協定を結び
市が掲げる「切れ目のない子育て支援」の実現に取り組んでいます。
JAが強みとする「食・農・健康づくり」を柱として
学校給食への食材提供や親子で参加できる催しなどを推進中です。
JA共済連は「地域・農業活性化事業費」を活用し、
市とJAが地域課題の解消に向けて取り組む活動を応援しています。**

県外に出た若者が戻ってこない 人口減少の加速に強い危機感

愛媛県の北東部に位置する今治市は、瀬戸内海に浮かぶ島しょ部から緑豊かな山間部にまたがる自然に恵まれた地域です。しまなみ海道沿いのエリアでもあることから、この地域を管轄するJAおちいまばりでは、地元で採れる安心・安全な野菜を「しまなみ彩野菜」としてブランド化しています。

令和6年6月21日、今治市とJAおちいまばりは「子育て支援分野に関する連携協定」を締結しました。地域の大きな課題である少子化と人口減少の解決に向け、誰もが安心して子どもを生み育てられる持続的な地域社会の実現を目的としています。

以前から今治市とJAおちいまばりは、地域の活性化に向けて、新規就農者のIターン誘致や小学生を対象とした農業体験など様々な施策を通じて協力関係を築いてきました。しかし「一つ一つの施策が単発で終わってしまったり、連携の範囲が限定的だったりと、課題も残っていました」とJAおちいまばり金融企画課課長の八木治洋さんは話します。

またJAとしても、近年加速する人口減少に危機感を強めていました。この地域で生まれ育った若者は、進学や就職を機に県外に出たまま地元に戻らないことが多く、それが就農人口の減少にもつながっています。

「地域農業の担い手を増やすには、若い世代に『働くならやっぱり地元がいいね』と思ってもらえる環境を作らなければいけない。次世代が住みたくなる条件として、子育て支援の充実は必須です。そのためには行政との連携を一層強化し、若い人にとって魅力ある地域づくりを推し進める必要がありました」

「愛媛県×JA共済連 愛媛」の連携協定が連携強化のモデルケースに

一方今治市も、子育て世代への支援拡充を図ってきました。令和４年度には「今治版ネウボラ」※と名付けた独自の子育て支援策をスタートし、妊娠・出産期から18歳までの子どもがいるすべての家庭を切れ目なくサポートする体制づくりを進めています。

こうした市の動きを受け、JAおちいまばり内で「地域の課題に官民一体で取り組むため、市と連携協定を結んで協力関係を強化」との方針が打ち出されます。その背景にあったのが、前年の令和５年7月に愛媛県とJA共済連 愛媛との間で「子育て支援分野に関する連携協定」が締結されたことでした。

愛媛県本部は平成12年に育児中の女性をサポートする『JAこども倶楽部』を設立するなど、早くから子育て支援に力を入れてきたことで知られます。その県本部が行政と連携協定を結んだことは、JAおちいまばりにとって最良のモデルケースになりました。

また県本部としても、「県×JA共済連 愛媛」の事例を、「市町×JA」の単位へ広げていきたいとの思いがありました。その理由について、JA共済連 愛媛の安永大雅さんは「市町のための子育て支援を実現できるのは、地域に根差したJAだからこそ」と説明します。

「JAのノウハウを活かした取組みの提案に期待したい」と語る今治市 こども未来課の長野潤さん

今治市との連携協定締結に向けてサポートを行ったJA共済連 愛媛の安永大雅さん

「同じ県内でも、市町によって子育てに関する課題は様々です。県本部も県と協力して子育て支援に全力で取り組みますが、対応できるニーズは全県共通のものが中心となる。地域に密着したJAなら、市町が抱える個別の課題にきめ細やかな対応ができます」

その後、今治市長とJAおちいまばり理事長の間で、連携協定の締結に向けた意思疎通が図られ、八木課長率いる金融企画課がJA側の統括役を担うことが決定。令和６年４月、市に対して協定締結の申し入れを行いました。

今治市側の窓口を務めたこども未来課の長野潤さんは、提案を前向きに受け止めました。

「切れ目のない子育て支援の実現は、行政のリソースだけでは難しい。JAのように豊富な経験や広いネットワークを持つ外部組織から連携の提案を頂くのは、私たちにとってもありがたい話です。それにJAおちいまばりとは多くの分野で協力してきたので、連携協定を結ぶことにハードルは感じませんでした」

協定締結に向けて市と協議を開始するにあたり、金融企画課としてこだわったのが、他部門を巻き込むことでした。営農や管理など各部門の企画担当者に声をかけ、今治市との初回打ち合わせの場に全員を集めたのです。

「例えば市と連携して食農関連の施策を実施するなら、営農部門が主体で動くことになる。組織を挙げて取り組むには、市との協議に各部門が同席し、協定の目的や意義を共有する必要がありました」と八木課長は話します。

この初回打ち合わせには、愛媛県本部の安永さんもオブザーバーとして参加。県と協定を結んだ経験をもとに「協定の締結がゴールではなく、永続的に連携・協議できる関係を構築することが重要」と伝えました。このアドバイスを受け、協定書には継続して協議の場を設けることを明記。定期的な対面打ち合わせを実施できる体制を構築しました。

JAが協定書の素案を作成するなど協定締結に向け率先して行動

協定締結に向け、まずは市とJAが個別に取り組んでいる子育て支援の内容を整理することで合意。その結果を持ち寄り、「今何ができていないのか」を洗い出すことにしました。協議を進めやすくするため、JA側は第２回打ち合わせの前に協定の素案を作成。今治市の長野さんも「議論の叩き台になる素案を準備していただいたおかげで、その後のプロセスが円滑に進んで助かりました」と感謝します。

「JAと市がざっくばらんに語り合える関係性を構築できた」と語るJAおちいまばり 金融企画課 八木克典さん

その後は定期的に打ち合わせを重ね、双方が実現したいことを率直に議論しました。現場で協議を主導した金融企画課の八木克典さんは、「子どもの成長に欠かせない食の専門家としてのJAの知見や、JA共済連が展開する『こども倶楽部』の活動を通じて蓄積された子育て世代とのつながりを活かして欲しいとの要望を市から頂き、JAの強みである『食・農・健康づくり』を柱とした協定内容へと落とし込んでいきました」と振り返ります。

協定締結を大々的に発表するため、調印式を行うことも決定。愛媛県本部が県との協定締結に際して作成したプレスリリースを参考に、協定内容をわかりやすくビジュアル化した資料をJAが作って報道各社に送りました。

こうして令和６年６月21日の調印式を迎え、今治市長とJAおちいまばり理事長が出席して連携協定を締結。両者が締結書にサインする様子は新聞などで大きく報道されました。

締結式にて、今治市の徳永繁樹市長とJAおちいまばり渡部代表理事理事長

※ネウボラとは、フィンランド語で「相談・助言の場所」を意味する言葉および、フィンランドの妊娠期から就学前の子どもがいるすべての家庭への切れ目のないサポートを行う子育て支援を指します。
今治市では「今治版ネウボラ」として、サポート対象を拡大し妊娠期から出産・子育てのライフステージに応じた、相談、情報発信、手続きなどを包括する子育て支援に取り組んでいます。

協定締結後の第1弾として「ちょいムズチャレンジ」を実施

連携協定を締結したとはいえ、これはあくまでスタート地点。「協定を形骸化させないよう、できることから一つ一つ実現していかなくては」と八木課長も気を引き締めます。

令和６年度については、市内の学校給食への農畜産物の提供や、市が開催する育児支援イベント「パパママ学級」に「しまなみ彩野菜」を提供することが決まるなど、具体的な施策が着々と進行中です。加えて今治市から打診されたのが、子ども向け運動プログラム「JA共済プレゼンツ ちょいムズチャレンジ」の実施でした。

本プログラムは子どもがゲーム形式で楽しく遊びながら、運動能力の発達に必要な動きを体験できる内容で、前年度に愛媛県本部が他地域の催しで実施していました。それを知った市から「ぜひ今治でもやりたい」と相談を受け、実施可能な機会を検討した結果、10月13日に市が開催する子育て支援イベント「こどもが真ん中フェスタ」に「ちょいムズチャレンジ」を出展することが決まりました。

親子で体を動かす楽しさを体感していただく運動プログラム「ちょいムズチャレンジ」

このイベントは毎年開催され、令和６年は今治市合併20周年記念として例年以上の規模で行う計画で、JAとしても自分たちの取組みを市民に広く知ってもらう絶好の機会になります。ただし出展が決まったのは８月末で、準備期間は１ヶ月強しかありません。特に大変だったのが場所の確保でした。

「ちょいムズチャレンジ」のブースを設置するには一定の広さが必要なことに加え、多くの子どもに体験してもらうため、来場者の目につきやすい場所に出展したいとJAから市に提案。「条件に合う場所が限られる中、市が候補地をいくつも探してくださり、最終的にはキャラクターショーの会場前という多くの人が集まる場所を確保できた。本当にありがたく思います」と八木課長は語ります。

難しい調整が円滑に進んだのも、市とJAがお互いの意見をざっくばらんに話し合える関係を作ってきたからこそ。今治市の長野さんも「私たちにできることなら何でもやりますよ」と笑顔を見せます。

普段は接点のない子育て世代がJAを身近に感じるきっかけに

こうして迎えた「こどもが真ん中フェスタ」の当日。秋晴れのもと、大勢の親子連れがイベント会場を訪れました。

「ちょいムズチャレンジ」のブースにも次々と子どもたちが入っていき、用意された３種類のゲームに挑戦。狙った場所にボールを蹴ったり、的をめがけてラケットでボールを打ったりと、どの子も夢中で体を動かします。その様子を見守る保護者も「惜しいよ」「上手！」と声をかけたり、我が子の奮闘ぶりを撮影したりと大盛り上がりです。

ゲーム形式のプログラムに、夢中になって体を動かす子どもたち

チャレンジを終えた小学生の女の子は「ボールを蹴るのが難しくてドキドキしたけど、楽しかった！」と話し、保護者からは「子どもが体を動かす機会が減っているので、普段できない運動を体験させてもらえるのは親としてもありがたい」との声が聞かれました。また「JAが農業以外の活動をしていることを初めて知った。親子で楽しめる企画をやってくれたら、また参加したい」と話す保護者もいるなど、地域の方がJAを身近に感じるきっかけになったことが伺えました。

イベントを終えた八木課長は「これほどの大盛況になったのは、JAの単独開催ではなく、市主催による集客力があってこそ。連携協定による相乗効果を実感しました」と手応えを掴んだ様子です。今治市の長野さんも、「今後はJAの全国的な知名度とネットワークをお借りして、今治市の情報をより広く発信し、他地域で暮らす若い世代にも今治市の魅力や充実した子育て支援の取組みについて知ってもらえたら」とさらなる連携の効果に期待します。

たくさんの来場者と触れ合う八木課長。イベントは大盛況のうちに終了しました

JA共済連 愛媛の安永さんは「市との連携を通じて、JAおちいまばりの強みをこれまで以上に発揮すれば、JAの存在意義の向上やJAファンづくりにつながります。県本部としても、同様の協定を県内のJAや市町に広げるための支援に力を入れていくつもりです」とJAに激励のメッセージを送ります。

これからもJAとJA共済連が力を合わせ、農業と地域社会の発展に貢献していきます。

取材協力者のご紹介

JAおちいまばり
金融営業部
金融企画課 課長
八木治洋さん

[地元の好きなところ]
人が優しくて温かみがあるところです。困っている人がいたらすぐに声をかけたり、手助けする人が多く、私も地元の人たちの親切さにいつも助けられています。

[休日の過ごし方]
ドライブに出かけることが多いですね。先月は愛媛県久万高原町にある四国カルストへ行きました。景色がとても美しく、空気もおいしくて、良い気分転換になりました。

八木さんに！ 一問一答

連携協定に関して

市と協定を結ぶメリットとして期待することは？

個人的に期待するのは情報発信力の強化です。市の広報力やPR力をお借りすることで、組合員以外にも広くJAの活動を知ってもらえるのではと考えています。

協定内容を子育て支援に特化した理由は？

市が「今治版ネウボラ」を推進していたことが最大の理由ですが、JAとしても「未来を担う子どもたちに健康で元気に育ってほしい」との思いがありました。

地域貢献活動に関して

**協定締結以前は
どんな子育て支援に取り組んできましたか？**

力を入れてきたのが、管内の小学生を対象とした農業体験です。ただ地域の子育て世代を広く支援するには、取組みの範囲を拡大する必要性を感じていました。

地域貢献活動によって目指すことは？

地域の皆様に「JAはなくてはならない存在」と思って頂くことです。そのためにも地域の人たちに寄り添った子育て支援を継続していくことが重要だと考えています。

JAおちいまばり
金融営業部
金融企画課
八木克典さん

[市と連携する際に意識していることは?]
自分たちの意見や要望を口に出してしっかり伝えること。直接話すことで、相手との良い関係が築かれていくのだと考えています。

[地元の好きなところ]
自然が豊かで景観が美しく、気候も穏やかで暮らしやすいところが気に入っています。

今治市 こども未来課
長野潤さん

[地元の好きなところ]
今治市の観光スポットであるしまなみ海道です。海道を自転車で走りながら雄大な景色を眺めると、心が癒されますので、ぜひ観光に来た方にもサイクリングを楽しんで頂きたいです。

長野さんに！ 一問一答

連携協定に関して

JAおちいまばりと連携協定を結んだ理由は？

それぞれが培ってきた経験や知見を持ち寄り、お互いの強みを活かすことで、今治市が目指す「切れ目のない子育て支援」が実現できると考えました。

協定締結にあたってJAに要望したことは？

行政と民間で協定を結んだものの、具体的な取組みに結びつかない事例も多いと聞くので、小さなことでもいいから具体的な施策を一緒に考えていきましょうと伝えました。

地域貢献活動に関して

「ちょいムズチャレンジ」の出展に合意した理由は？

子どもの健康づくりにつながる企画で、「こどもが真ん中フェスタ」に相応しいと考えました。子どもたちが喜ぶプログラムを提供して頂き、ありがたく思っています。

今後JAおちいまばりに期待することは？

食や農の知見を活かした取組みはもちろん、JAグループが持つ巨大なネットワークを活用して、今治市の名前を全国に広めて頂けたら嬉しいです。

JA共済連 愛媛 担当者のご紹介

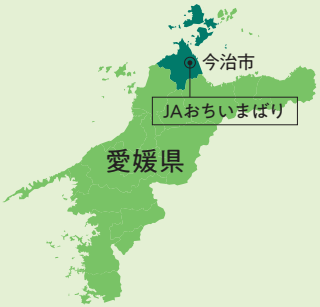
JA共済連 愛媛 管理部 企画管理グループ 調査役
安永大雅さん

[愛媛県 JAおちいまばり]

JAおちいまばりは、本州と四国を結ぶ「しまなみ海道」が走る風光明媚な島しょ部地域と、四国の玄関口として造船やタオルで有名な今治市を管内に持ち、温暖な気候と長い歴史と伝統に育まれた地域にあります。管内の農業は、島しょ部及び陸地部の山間部で、当JA農畜産物販売高の大半を占める柑橘類が栽培されており、陸地部の平坦地では米麦や施設園芸作物等の栽培が中心となっています。

〈 JAおちいまばり 概況 〉

- 組合員数　35,582名（うち正組合員8,957名）
- 職員数　833名（うち正職員448名）
- 主な農産物　米・麦・里芋・いちご・トマト・きゅうり・他



Instagramでも JA・JA共済の地域貢献活動を紹介しています。

「どやふる/DOYAFUL Powered by JA共済」
@doyaful_jakyosai

「JA共済 地域貢献活動 PROJECT STORY」は今後もシリーズとして発行を予定しています。同取組みを動画で紹介している「一緒に地域を咲かせよう」もぜひご覧ください。

県域独自の地域貢献活動を動画で紹介
「一緒に地域を咲かせよう」

JA共済　咲かせよう　検索

▶ https://social.ja-kyosai.or.jp/prefecture_case/

編集後記

地域の人口減少という課題を解決するために、市・JA・県本部が一体となって「子育て支援」に力をいれ、イベントを作り上げていること、3者それぞれが気軽に意見交換ができる関係性が構築されていることがとても印象的でした。
また、子どもたちの楽しそうな表情から、地域貢献活動の重要性を感じました。
本記事へのご感想やご意見等ございましたら、お気軽にご連絡ください。（西川・町田）

発行：JA共済連 全国本部 農業・地域活動支援部